

姿を現す成長軌道に乗り「赤字興国」へ

三國事務所代表取締役 三國陽夫

- *見えてきた7%の名目成長軌道
- *深刻な三つの問題
- *「自走式」で走る準備が整う
- *ついにオカネが回り始めた
- *住宅着工から見る日米の20年
- *経常黒字は駐車用ブレーキと同じ
- *消費と住宅を中心にした成長を
- *為替は緩やかな円高基調で安定へ
- *付加価値を高めて価格に反映させる
- *日本文化の独自性を活かせ



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は皆さんよくご存じの三國さんにお越しいただきました。前回は昨年6月ですので1年と少したっておりますが、その間、日本の経済の状況もかなり変わりました、為替が円安に振れ、経常収支の黒字がかなりおぼつかなくなってきました。これは、流れから言えば三國さんがここでこれまでお話しいただいた望ましい流れの方向に急速にきているという状況でございます。

今日はたいへんたくさんの方に来ていただいておりますが、この状況が嘆かわしいことではなくて、日本にとってたいへんすばらしいというお話が聞けるのではないかと期待があるためだと思います。（笑）今日はきつとそうい

うお話をさせていただけると思いますが、ぜひゆつくりお聞きいただきたいと思っております。

それでは三國さん、よろしくお願いいたします。（拍手）

三國 ただいまご紹介にあずかりました三國でございます。本日は「姿を現す成長軌道に乗り『赤字興国』へ」という、欲張った長い題名の話をお願いします。最初に、本日の講演の大纲をレジュメで説明いたしましたので、その後、個別に話を進めていきたいと考えております。

1番目です。マネーストックの増加と経常収支黒字（資本輸出）の関係を見ると、日本ではリーマン・ショック後から国内に資金が回り始め、景気回復はまだら模様ながら進んでいます。マネーストックの増加額から資本輸出額を差し